

沖縄について

沖縄は、日本最南端の県であるとともに、まっさらな砂浜、海の生き物で賑わうサンゴ礁、熱帯雨林のジャングルを擁する国内で唯一亜熱帯に属する地域です。約 160 の小さな島々からなり、有人島はそのうちのわずか 47 島です。沖縄の島々は、九州のすぐ南から台湾の北わずか 100 キロメートルの地点にかけて 1,000 キロメートルにわたって散らばっています。夏は蒸し暑い沖縄は、冬は温暖で快適です。6 月から 10 月にかけて、しばしば強い台風が島々を襲います。

沖縄諸島には世界でも屈指のダイビングとスノーケリングスポットがいくつもあります。また、カヤックやトレッキング、那覇大綱挽をはじめとする祭り、空手や伝統工芸体験、そして日本本土と比べてずっと早く見頃を迎える桜の花見も楽しめます。

沖縄の豊かな食文化は、地域独自の食の伝統と、何世紀にもわたる他の国々との交易の中で持ち込まれた食材や料理が組み合わせられたものです。一部の料理や調理法は、中国からの使節団とともに伝来し、徐々に一般の食文化の中に浸透していきました。他の東アジアの国々に起源を持つ食べ物には、豚肉や異なる品種のイモなどの定番食材も含まれます。戦後、食材や料理はこの地域の食文化をさらに豊かにしました。

沖縄料理には、ゴーヤというビタミン C が豊富でとても苦いウリの一種をはじめ、健康増進効果があるとされるハーブと野菜が多く使われます。伝統的に、地元の人々は健康に良い食べ物を「薬になるもの」という意味の「くすいむん」と呼んでいます。これは、健康のためには食事と薬は同じくらい大切であるという考えに由来する言葉です。

沖縄の歴史

沖縄は 15 世紀から 19 世紀まで琉球王国と呼ばれる誇り高い独立国家でした。1429 年、初代琉球国王の尚巴志（1372–1439）は、グスク時代後期に各地を治めていた北山・中山・南山の三王国を統一しました。尚巴志は首都を首里（現在的那覇）に置き、全盛期の琉球諸島を統治した王朝を創設しました。

その後 4 世紀半にわたって琉球王国は通商国家として繁栄しました。琉球王国は、中国に貢物を納めて自国の独立の維持を可能にする朝貢関係を築き、タイや韓国などの他のア

ジア諸国とも友好的な交易関係を享受しました。また、日本と中国の仲介役も担いました。このことは、首里城の鐘に刻まれた「国々を結ぶ架け橋」という意味の「万国之津梁」という言葉によって象徴されました。

1609 年、日本の南部にあった薩摩藩（現在の鹿児島県）の侍たちが沖縄に侵攻し、日本本土からの影響が強まる時代が始まりました。琉球王国はその後、1879 年に沖縄の島々が日本に併合されるまで 2 世紀間にわたって中国をはじめとするアジア諸国との結びつきを保ちました。日本への併合をもって、琉球王国は正式に終わりを迎えました。

1945 年の沖縄の戦いにおける激戦で合わせて 20 万人の兵士と市民が亡くなり、第二次世界大戦の最後のヶ月で沖縄は荒廃に帰しました。その後 27 年間続いたアメリカによる占領は、工芸、音楽、料理などの沖縄の生活や文化に今なお残る影響を及ぼしました。沖縄は 1972 年に日本に返還されました。

沖縄の文化

建築

沖縄の 5 つの城、陵墓、石門、そして 2 ヶ所の文化的な景観を留める史跡は、一括でユネスコの世界遺産に登録されています。これらのグスクと呼ばれる城は、日本の他地域の城に見られるまっすぐの石の城壁とはかなり異なる緩やかに曲線を描く石垣で囲まれています。世界遺産に登録された 9 カ所の史跡には、沖縄の現県庁所在地にあるかつての琉球王国の王の居城、首里城の跡も含まれています。これらの史跡は、グスク時代から琉球王国の時代にかけての社会と文化を垣間見せてくれます。

伝統工芸

漆器、織物、陶器、ガラス細工など、沖縄の伝統工芸の多くは琉球王国の時代に起源を持ちます。沖縄で最も有名な伝統陶芸の中心地は、那覇市の壺屋です。壺屋は、日用品や甕などの幅広い品々を生産するため琉球王国によって創設されました。沖縄の島々には他にもあちらこちらに窯があり、多様な様式の陶芸品が作られています。第二次世界大戦が終わって間もない時期、ガラス職人たちはアメリカ軍が廃棄したボトルを再利用して、今日琉球ガラスとして知られる色彩豊かなガラス工芸を創案しました。

信仰

先祖への深い崇拝は沖縄文化の礎です。宗教的な儀式は、各家庭にある祭壇や先祖の墓前、そして御嶽と呼ばれる聖域で行われます。こうした儀式はしばしば、三線という三本の弦を持つ沖縄の楽器の伴奏に合わせた歌や踊りを伴います。

歌と音楽と舞踊

歌、音楽、そして舞踊は、沖縄の社会、文化、宗教において大きな重要な位置を占めます。沖縄の楽器で最もよく知られているのは、ピックか指で弦を弾いて音を出すバンジョーのような三線です。三線は、エイサーという有名な民俗舞踊の伴奏をします。エイサーは、仏教の念仏や先祖を崇拝するための夏の儀式に起源を持ちます。20 世紀の間に、エイサーは力強い振り付け、凝った衣装、大小の太鼓、さらにポップ音楽までを取り入れた人気の高い現代パフォーマンスアートへと発展しました。

武術

沖縄は空手（文字通り「空の手」という意味）発祥の地です。素手で戦う技術である空手は、中国の武術の影響を受けましたが、琉球王国時代に現在の形になり、1920 年代に日本中に広まりました。空手は現在ではスポーツとなっており、世界中に 1 億人の競技人口がいます。

おもてなしの心うといむち

名高い沖縄のおもてなしは、料理や酒、音楽を用いる言葉不要のコミュニケーションで客を楽しませるというものです。これは、歴代の琉球王が中国と日本をはじめとする東アジアの交易相手国からの賓客を歓待していた時代から続いています。言語や国境の壁を越える沖縄のおもてなしの心は、沖縄文化に深く根ざしています。沖縄の方言ではこのおもてなしの心を「うといむち」と呼びます。